

2030年に向けて／第14次中期経営計画／2025年度事業計画

——— すべては、豊かで可能性の広がる社会の創造のために ———

更なる企業価値向上と大きな成長を遂げていくにあたり、未来の希望的な会社のイメージを描き、そこから現在にバックキャストし、社会の環境変化が続く中で成長させていく事業領域や戦略の方向性について検討を重ねました。2023年度には、その指針として「2030年のありたい姿」を策定しました。

あわせて、その実現に向けた道筋を、3か年の第14次中期経営計画と各年度ごとに定める2025年度事業計画に反映し、チャレンジングな取組みを進めています。

2030年に向けて

2030年のありたい姿

**社会的ロスがない、
便利で豊かな社会の実現に貢献する企業であり続け、
ビジネス課題・社会課題解決の貢献に比例した
事業成長を目指す**



売上高

1,300-
1,500億円

CAGR

10-12%



営業利益

150億円

営業利益率

10-12%



ROE

12%以上

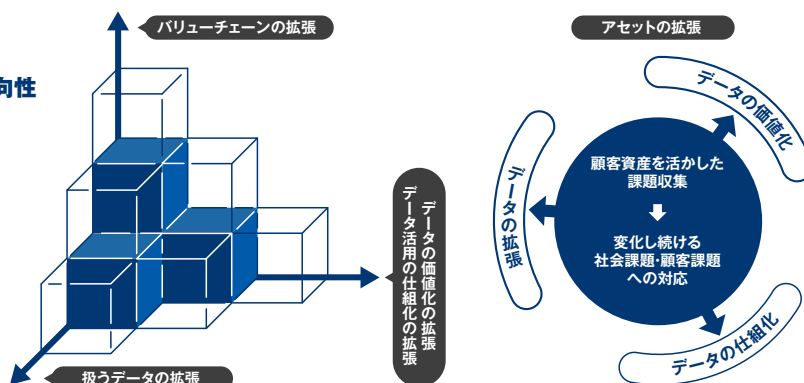


R&D費用

全体の
3%水準

「2030年のありたい姿」を 実現するための基本的な方向性

2030年に向けて
社会課題解決を支援するため、
アセットの拡大のサイクルにより、
Data + Technologyで
価値発揮の領域を
拡張していくことを
目指しています。



第14次中期経営計画 (2024年6月期～2026年6月期)

当社グループは3ヵ年ごとの中期経営計画を策定しており、2023年8月に第14次中期経営計画を公表しました。

基本方針

Data+Technology企業としての New Portfolioへ — 新たな価値発揮の創出 —

重点課題 P 01

グループ戦略

2030年の展望を
ゴールとした
ビジネス価値発揮の拡大

重点課題 P 02

テクノロジー戦略

データ活用、DX支援に
挑戦し続け、
産業の境界線を越える

重点課題 P 03

データ戦略

市場が変化しても
自社データ価値を高める
データ戦略の推進

重点課題 P 04

共創戦略

新たな価値発揮の
創出を支援する
グループ共創の推進

非財務目標



ENVIRONMENT

CO₂排出量を

46%削減

2030年目標 2013年比

再生エネルギー

使用率**100%**

2030年目標

TCFDの対応



SOCIAL

エンゲージメント

提供価値

多様性



GOVERNANCE

取締役会の構成の
最適化

リスク
マネジメントの
徹底

コンプライアンスの
順守

2025年度事業計画

基本方針

Growth with Optimization

新しい事業ポートフォリオの確立

重点課題 P 01

「2030年に向けて」を
ゴールとした
ビジネス価値発揮の拡大

重点課題 P 02

事業ポートフォリオ
(成長と最適化)を
明確にした事業運営

重点課題 P 03

グループ総合力を高める
最適フォーメーション
へのシフト